

社会資本総合整備計画『世界に誇りうる「ピワイチ」の自転車通行空間整備』の中間評価

●委員

11 ページに「自転車を通じて優れた観光資源を有機的に連携する」というナショナルサイクルルートの理念が記載されているが、観光振興に繋げていくというもので、走行空間の整備だけではなく、観光地につながる道路も重要となる。観光地につながるルートの整備はどうなっているのか。また、サイクリストをサポートする施設があるのか。

○事務局

琵琶湖一周だけではなく、放射線状に延びていくようなピワイチプラスルートについては、観光部局とタイアップしながら自転車活用推進計画にて将来ルートとして位置づけ、整備していきたいと考えているが、現計画は琵琶湖一周のルートのみとしている。

また、観光地へのルート案内として、主要観光地を定めて看板を設置している。

その他にもサポートステーションといった施設を観光部局にて民間募集により設けている。ソフト対策とハード対策を合わせて取り組みを行っている。

●委員

本計画の工事は大変工期が短い、工事範囲は広く感じた。最近では自転車が增多している、事故の軽減にも繋がり、また琵琶湖を楽しんでいただくためにもよい。観光入込客の目標設定は、コロナの影響は仕方がないので現実に見合った形にすべき。今後も、事故なく迅速に工事が行えるように願います。

●委員

事業の効果測定方法について、今回は観光客数というアウトカム評価を行っているが、それ以外にもあるのではないかと。産業の活性化といったものを定量的に評価できるものを設定する必要があると思う。

●委員

経済合理性の確認はどのように行っているのか。

○事務局

観光部局で経済波及効果を算出している。

●委員

植栽帯を撤去して路肩整備を行うことについて、県は道路緑化についてどのような考えで進めているのか。

○事務局

ビワイチについては、琵琶湖沿いで自然環境が豊富にあるので、観光に力を入れたいとの考えで、植栽帯を撤去する方法を進めている。

市街地などには緑地が必要であったりするので、地域の特性に合わせた道路緑化に取り組んでいる。

●委員

16 ページの写真は植栽帯撤去により景観を損ねているのではないかと。

○事務局

写真撮影の季節によるところが大きく、植栽の一部を残している。

●委員

自転車道整備が進むのは大変いいことだと思う。これに合わせて駐輪場や休憩施設の整備が進むよう、今後も検討してほしい。

●委員

植栽帯により視距が確保できないこともある。資料 15 ページに記載の箇所は、植栽帯の撤去により見通しが良くなり、安全が担保されたと感じる。メリットデメリットがあるかと思うが、バランスよく事業を行ってほしい。

●委員

地元の方々や環境に配慮した施工を行っていくべきである。

●委員

本事業ではどれぐらいの幅の走行空間を整備しているのか。橋梁などはどのようにされているのか。

○事務局

路肩を拡幅するところでは基本 1.5m の幅を確保している。橋梁のような新たに空間を確保することができない箇所では、車と自転車が混在する区間とし、注意喚起を行っている。今の施設を有効活用することを前提に少しずつ道路空間の再配分を行っている。

●委員

逆回り（右回り）をするサイクリストが通るのはどこになるのか。

○事務局

歩道を通っていただくようにしている。

以上